

会山行 NO. 2324

1.2 三ノ窓雪溪めざし、剣沢滑降 真砂沢ロッジへ 長岡浩一

02年5月24日(金) 起床5:00~扇沢発7:30~室堂9:30~雷鳥平10:25~剣御前小屋12:15-12:45  
 ~真砂沢ロッジ13:35テン泊~就寝19:00

参加者 後藤隆徳 真砂沢は別天地。しかし男二人、酒と食料を削り過ぎた。  
 長岡浩一 加藤さんのありがたみがよ〜く分かりました。

前夜、大町駅前まで腹ごしらえして、21時頃扇沢着。数台の車しかない駐車場にテントを張り、前祝い?の乾杯をして寝る。

翌朝、良い天気。のんびり仕度をして、7時半の始発トrolleyに乗る。さすがにスイテいる。数人の山スキーヤーと登山者。観光客も少し。ピッケルを持った、60過ぎの単独女性が目を引く。

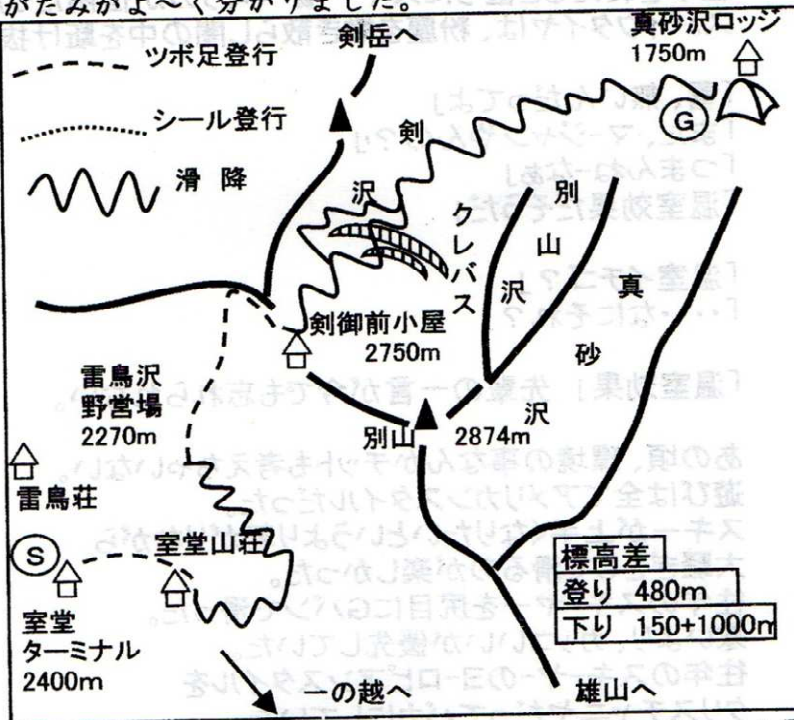
黒部平ではタンボ沢がよく見えた。下部はブッシュが出ているが帰りは滑って来れそうだ。

室堂で外に出るとだいぶ雲が出ている。スキーを手を持って室堂山荘の方へ向かい、山荘から谷へ滑り込む。小尾根に乗って底まで降り、シールを貼る。

雷鳥沢の左手の尾根を登り始めると、アラレが降ってきた。アラレやヒョウは激しい上昇気流ででき、この時季に多い。雷が来るかもしれない。去年、白馬岳で超激しいアラレの中、雷で恐ろしい目に会った。これから高みへ登るのに、気が重い。しかし登るにつれ、時々ガスに巻かれるものの、アラレはおさまりひと安心。雪は適度に腐り、シールもよく効いて登り易い。最後の10m程は急な雪壁状でスキーをはずし、後藤さんは手に持って、私は手が悪いのでリュックにつけて登った。やせた尾根に出て右に進み、少しトラバースで剣御前小屋のある別山乗越に着く。乗越の室堂側は雪がまったく付いてないが、剣沢側は小屋の前からたっぷり付いている。

小屋に入ると、先程の単独の年配女性がいた。速いのにびっくり。話をすると、明日ガイドについて源次郎尾根を登攀すると言う。キャシャなおば様だがすごい。売店で、かわいらしい娘っ子からビールを4本ずつ買った。荷物が17キロ位だったので、もっと買うべきであった。後は下りだけなのだから。小屋で少し休憩して、滑りにかかる。

剣沢は広くなだらかだ。雪質は表面が凍り気味の腐れ雪で滑りにくいだが、あ〜という間に剣沢キャンプ場の平坦地に着く。標高が200m程下がって滑りやすい雪質になる。ここから少し傾斜が増す。立ち止まって前方確認。少しガスっているが、右下にクレバスが見えた。しかしこのクレバス、実は長〜く左まで続いていた。後藤さんは左へ大きく迂回、私は気付かずまっすぐ下へ滑った。すぐクレバスに気付いたが、幅が50センチ位なので大丈夫と思いつつ通過。しかし、それに気を取られ、10メートル先のクレバスに気付くのが遅れた。今度のはでかい。1m50位ありそう。もう間に合わない。オーマイゴッド!





ほんの1・2秒の間に頭の中で、とにかく加速しなきゃとか、軽くジャンプすれば、でも荷物が重い体が動かないとか、これをパニックというのか、とか色々なことを考える。結局、直滑降抱え込み抜重？で無事通過。しかし、ビックリして心臓バクバクであった。

平蔵谷出会いあたりまで快適に滑るが、雪面のしわがひどくなり、休憩していた5-6人のパーティの前で大転倒。外れたスキーを付け直し、近づくと後藤さんが話をしていた。札幌からガイド付きで来た女性パーティで、真砂沢を滑ってきたという。えっ？我々も当初、真砂沢滑降を予定していたが、室堂山岳警備隊に問い合わせた所、今年は下部が雪がなくてダメだということで、あきらめたのだ。しかし、快適だったという。警備隊の情報もあてにならないもんだ。

大きなシワに苦勞しながら長次郎谷出会いまで来ると、大量の土砂が剣沢の幅いっぱい押し出されていて、スキーをはずして通過する。右から別山沢が合流。見上げると、真っ直ぐで気持ち良さそうな沢だが、ちょっと短い。さらに下って、雪がしっかりと詰まった真砂沢が右から合流し、真砂沢ロッジ到着。スキーは速い。別山乗越から50分である。

小屋はまだ無人で雪に埋もれており、青いトタン屋根だけが出ている。台地の際のわずかに地面が出た所にテント設営。外でビールを1本。曇っていて寒いのでテントに入る。男二人、後は飲むしかない。全部で、日本酒5合、加藤さんからのウイスキー500ccを残り等を気にしながらいただく。ビールは我慢。夕食は、国際線御飯(α米)とレトルトカレー。味気なく、量もさびしい。加藤さんのありがたみが良くわかる。18時30分、早々に寝る。他にパーティは無く、静かな夜だった。

## 反省その他

- ①前を良く見て慎重に滑る。
- ②真砂沢は良いところ。入るのも楽なので、酒と食料をたくさん持ってみんなで行こう。

剣沢の下り

















山名	三ノ窓 (2650m) ・ 池ノ平山 (2560m)		後藤 隆徳
<b>一日で1000mを2回 上り下る超ハードコース</b>			
5/25 (快晴) 3日目	起床2:15 - 出発3:50 - 三ノ窓雪渓出合5:00 - 三ノ窓8:30 ~45 - 三ノ窓・北股出合9:25 - 平ノ池 - 池ノ平山13:10~30 - 平ノ池 - 三ノ窓・北股出合14:15 - B・C 15:45		
標高差	真砂沢~二股=▼約150m      二股~三ノ窓=△▼約1050m 二股~池ノ平山=△▼約1000m      二股~真砂沢=△約150m		
走行距離	下土狩 ~ 扇沢 = 約250Km	体力度=6 ・ 技術度=6 ・ 展望度=6	
今日の一言	後藤 (55) = 久しぶりにハードな山だった。だけどイイ所だね。 長岡 (43) = サイコー!!! 言うことはありません。		

今日は千mの上下を2回だから、とにかく早く出掛ける。カリカリの剣沢をヘッドランプを灯けて滑る。少し下ると剣沢はゴゴゴと流れている。ここで右岸に渡る。天気は快晴だ。

前方にテントが見えた。声を掛けると若い男で単独だった。聞くと内蔵助谷から真砂沢の道を間違ったと言う。

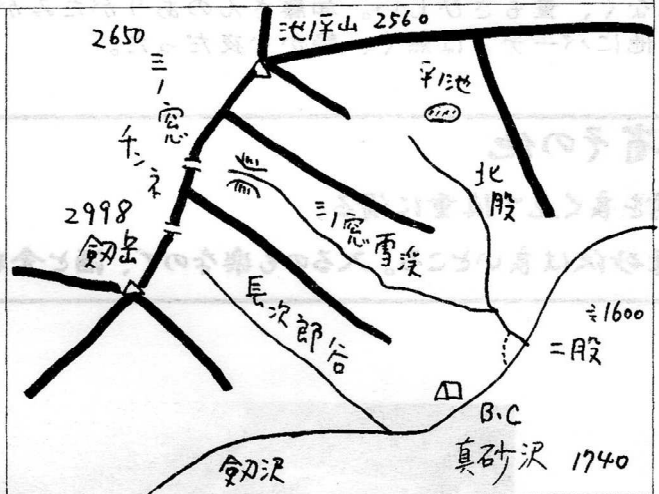
途中から歩き三ノ窓雪渓出合の二股に着く。だが、スノーブリッジが無く、左岸に渡れない。少し先が渡れそうだが手前が崖で危険だ。

そんなはずはないと戻ってみると対岸の岩場に鎖があり、スノーブリッジも渡れた。出合から仰ぐ三ノ窓は俗に言う「日本離れした光景」だった。真っ白い雪渓と真っ青な空をバックにチンネ、クレオパトラ・ニードル、ハツ峰のエギュー(針峰)が天を貫いている。それは正に「痺れてしまう」光景だった。

雪渓は締まっているのでスキーは担いで上る。次第に傾斜が増してくる。標高差比では真砂沢から剣御前と同じだが距離は半分しかない。その分、傾斜は強い。三ノ窓雪渓を特徴つけるインゼルが近くなる。途中、まだ新しい大きなデブリ(雪崩堆積)を越える。ハツ峰側からのもので、ワンプロックが人間の数十倍ある凄いな奴だ。剣の谷の雪渓が遅くまで残るのは、このように物凄い圧力で雪が固められているからである。まだ落ちそうなのも沢山引っ掛かっている。

B隊の女性班が上る白馬が大分高くなった。剣で湧いた雲が高速で後立山に流れる。多分、白馬は風が強いだらうと思ったが、後で聞いた話では、やっぱり猛烈な風だったようだ。インゼルは幅40mの狭い所。右の岩場との間には大きなクレバスが口を開けている。

ここから傾斜は更に増す。標高2500mで二股が真下に見える。ピッケルをしっかりと差し一步一步確実に上る。滑落は絶対禁物だ。山スキーはむしろ、滑りより上り





が困難だ。右手が使えない長岡は左斜上は苦しい。ここは堪えどころだ。

所が不思議なことに、こんな急斜面も滑ると実に安定し怖くない。何故なら、靴は大きくても30cm。私のスキーは180cm。つまり6倍安定してる訳。上りの方が余程怖いのです。

インゼルを抜けると傾斜は落ちて三ノ窓（コル）は目前だった。窓に立つと池ノ谷（いけのたん）の向こうに富山湾が見えた。ここから仰ぐチンネはいつ見ても雄々しい。風が強いので少し下で滑降準備。

正面に鹿島槍を見て滑降開始。インゼルまでは傾斜もなく雪も良くて超快適。インゼルは横滑り気味でこなす。長岡は小刻みのジャンプ・ターンが決まる。いつも思うが彼は「片手ストック」にも係わらず、両手ストックの私より華麗だ。だから被写体としても、なかなか絵になる。エギーユをバックに滑る様は、ほとんど「ヨーロッパ・アルプスの気分！」なのだ。

デブリ・ブロック・流水溝を避け北股出合着。たったの45分だった。以前読んだ本に「余り急な斜面は面白味に欠ける」とあったが同感だ。長岡は面白かった様だが、私は今ひとつ。どちらかと言うと、深雪のラッセル・コースが好みだ。

ビア1本を2人でいただき、腹ごしらえをして池ノ平山に向かう。ここは2・3年前、北方稜線縦走時経験しているので、地形は入力していた。流水溝の急斜面をこなすと平ノ池に出る。北方稜線時は、ビアを冷やす雪を加藤がバケツを持って取りに来たことを思い出した。

この山は池ノ平山とメルヘンチックな名前だが、どっこい三ノ窓に勝とも劣らない急斜面。2人ともヘロヘロで上る。1日で千m2本がきつい、きつい。

左手に剣、八ツ峰、チンネが凄い迫力だ。ようやく頂上山稜に到着。ここから西の毛勝三山が大きい。無線で白馬隊を呼ぶが結局出なかった。相変わらず生き物の様な白い雲が高速で東に流れる。這松の上にはしばらく横になった。

滑りは例によって45分で二股着。頂上山稜は素晴らしかった。下部は雨が流れた流水溝でいま一つだった。もう1本のビアをまた2人で飲む。再び剣沢を上り返し、ヨレヨレでB・C着。

久し振りに太股がパンパンだった。簡単な夕食を済ませ、残り少ないアルコールをチビチビやる。酒が少ないと無性に淋しい。隣に単独が来た。その横に大阪のスキー協会の人達6～7人が真砂沢を滑って来た。女性も何人かいた。

来年は皆でここをやろうと長岡と話した。夜は冷え込んでカッパを着ないで寝たら寒かった。

#### 自然の記述・反省・その他・・・

1. この時期、早朝「シギ」が鳴く。
2. ヤバイ所を無理に突っ込んではいけない。冷静にルートを探すこと。
3. 無線が入らなかった。大雪渓は無理？
4. アルコールはもう少し欲しかった。
5. 大は2回分持ち帰った。他のテントにもPRした。
6. 真砂沢では雪溶け水を確保出来た。
7. 八ツ峰下部で大規模な崩壊。剣沢まで押し出していた。
8. 前日も剣沢でバテバテの単独を見た。皆な大丈夫かなあ。































## k o - 1、念願の三ノ窓雪渓を滑る

長岡浩一

初めて三ノ窓雪渓を見たのは、25年近く前の夏。現在スキーアルピニズム研究会在籍の林雅康さん達に連れられて、剣岳を訪れた時のことだった。黒部ダムから下へ降り、ハシゴ谷乗越を越えるのにもうバテバテで、死ぬ思いで真砂沢のテン場へ。2日目、長次郎雪渓から剣岳へアタックするが、バテバテで敗退。3日目、阿曾原へ向かう途中、二股で初めて三ノ窓雪渓を目にした。仙人池への登りで八つ峰と三ノ窓雪渓は迫力を増し、天に突き上げる雪渓と岩峰を強烈に目に焼きつけた。しかし、初心者山屋の僕は、山スキーなんてものは知らず、ここでスキーをすることなんぞ、これっぽっちも思い浮かばなかった。

その後山スキーを始め、83年、岳人別冊『83の春山』という本で、カラーガイドのトップに剣岳三ノ窓の滑降が出ていた。インゼルは50度近いとあった（実際はない）。・・・それから19年。何べんそのページを開いたことやら。歳もとったが、スキーもだいぶ滑れるようになり、山スキーの会もできて、チャンスはやってきた。（歳をとるのも悪くはない？）

しかし、三の窓は遠い。初日は、真砂沢ベース迄。二日目にアタック。好天。雪渓を登るにつれ、紺碧の空を突く針峰が近づき、雪渓横の岸壁についたツララが陽に解けて、ガラガラと音をたてて落ちる。なんてすばらしいロケーション。25年近く前にバテバテでながめた三の窓に今登っている。

傾斜が増しインゼルに達すると、緊張で景色を見る余裕はない。登るにも怖い程の急斜面。直登は、つま先立ちできついのでジグザグに登るが、右手でピッケルが持てないため、右手山側の登りは無理な体勢となる。しかし、後藤さんがトップでしっかりステップをつけてくれたので、だいぶ助けられた。

三の窓からは、日本海が間近に見えた。さて、待望の滑降であるが、インゼルを無事通過出来るかが問題だ。狭く急な上に、幅の半分はクレバスだ。しかし、とり越し苦勞であった。滑り出すと登りほどの怖さは無く、軽快にジャンプターンでインゼルを通過。あっけなく北股出合いに着いてしまった。ビールで乾杯後、満ち足りた気分で2本目のアタック、池の平山へ向かった。池の平山、穏やかな名前であるが、こちらも中間は、登るのにも少々緊張する程の傾斜があり、痛快な滑降が楽しめた。二股で再度乾杯。

1日に、1000m2本のアタックはきつかったが、実質今季最後の山スキーは充実したものになった。後藤さんと好天に感謝！













END]